

●新会員代表者紹介

北岡 伸一 (きたおか しんいち)



国際大学
学長

森正勝前学長の任期満了に伴い、二〇一二年十月より、北岡伸一政策研究大学院大学教授・東京大学名誉教授が学長に就任した。

新学長は一九四八年奈良県生まれ。一九七一年東京大学法学部卒、一九七六年東京大学大学院法学政治学研究科博士課程修了、法学博士。立教大学法学部講師、助教授、教授を経て、一九九七年より二〇一二年まで東京大学法学部教授。この間、二〇〇四年から二〇〇六年まで国連大使を務めた。最近の政府関係の役職としては、日中歴史共同研究日本側座長(二〇〇六～〇九年)、いわゆる安保と密約に関する調査委員会座長(二〇〇九～一〇

國枝 マリ (くにえだ まり)



津田塾大学
学長

飯野正子前学長の任期満了に伴い、二〇一二年十一月一日付で学長に就任。任期は四年。

新学長は一九四七年生まれ。一九六九年に津田塾大学文学部英文学科を卒業、一九八三年にコロンビア大学教育学部大学院博士課程にて学位を取得した。一九八八年より北海道東海大学にて助教授、教授を務めたのち、一九九二年より津田塾大学文学部国際関係学科助教授に就任。一九九八年より教授となり現在に至る。二〇〇五年から学校法人津田塾大学評議員、このたび学長就任と同時に学校法人津田塾大学理事となった。

専門分野は比較教育学。異文化間教育学会、

「私立大学振興大会二〇一二」
開催

日本私立大学団体連合会(会長＝清家篤日本私立大学連盟会長・慶應義塾長、日本私立短期大学協会並びに日本私立高等専門学校協会では、今後の大学のあり方について共通理解を深めるとともに、平成二十五年(二〇二三年)度私立大学関係政府予算・税制改正に係る私立大学側の要望実現に向け、広く国民に働きかけることを目的として、平成二十四年十二月三日(月)、東京・アルカディア市ヶ谷において「私立大学振興大会二〇一二」を開催した。

同大会では、森口泰孝文部科学事務次官、大沼淳日本私立大学団体連合会副会長、清家篤日本私立大学団体連合会会長からのあいさつに続き、「わが国の持続的発展と私立大学——今こそ、私立大学の時代」をテーマにパネルディスカッションが行われた。小松親二郎文部科学省高等教育局私学部長をはじめとするパネリストから、それぞれの立場からの説明や

年)などがある。

専攻は日本政治外交史。主著に、『日本陸軍と大陸政策』(一九七八年)、『清沢列』(一九八七年)、『自民党―政権党の三十八年』(一九九五年)、『政党から軍部へ』(一九九九年)、『国連の政治力学』(二〇〇七年)、『官僚制としての日本陸軍』(二〇一二年)など。吉田茂賞、サントリー学芸賞、読売論壇賞、吉野作造賞を受賞。二〇一一年紫綬褒章を受章。

国際大学は、一九八二年、国際的な人材育成のために設立された大学院大学で、全寮制を原則とし、すべての授業を英語で行っている。本学の国際経営学研究科は、英エコノミスト誌の世界ビジネス・スクール・ランキングにおいて、世界七十九位、アジア五位にランクされている。また国際関係学研究科は、途上国、特にアジアの人材育成に力を入れていることで知られている。卒業生のネットワークは、世界五十カ国以上に及んでいる。新学長は、以上のような国際的な評価に加え、日本人学生の増加と日本関係科目の充実により、世界との結び付きをさらに強化していく方針である。

日本比較教育学会、日本教師教育学会、アジア教育学会、Comparative & International Education Society(USA)に所属。異文化間教育学会では理事を務めている。

二〇〇四年二月から三月まで、国際協力機構(JICA)の短期専門員として、アフガニスタンに派遣され、教育支援の調査にあたった。カブールだけでなく、バミヤンなどにも足を運び、女子教育の現状や日本で研修を受けた女性教員の本国での活動等を精力的に調査した。「アフガニスタンには女子が教育を受けるという概念がなく、定着には世代が交代するほど長い時間が必要。しかし、津田塾大学の創立者津田梅子が前身の『女子英学塾』を設立した時代の日本も同様で、女子への教育が定着するには時間を要した。あきらめず、粘り強く支援することが大切」と語る。自らの夢を実現し、社会に貢献しようという「津田スピリット」は、世紀を超えて津田塾生のアイデンティティとして継承され、国枝学長にも受け継がれている。つねに人の意見に耳を傾け、穏やかな人柄ながらも、しっかりと芯をもつ頼もしいリーダーである。

意見が述べられた。

昨年度に引き続き、東北学院大学をはじめとする全国の私立大学からテレビ会議による参加も行われ、全国の私立大学等関係者約四百人(テレビ会議含む)を超えるフロア参加者と共に国への要望等を述べた。

振興大会の締めくくりでは、納谷廣美日本私立大学団体連合会副会長から、①東日本大震災からの復旧・復興に係る支援の継続・強化を期す、②私立大学は、不断の教育改革を推進し、質的向上を期す、③高等教育政策のパラダイムシフト(大転換)の実現を期す、④平成二十五年(2023)年度私立大学関係府予算概算要求の満額実現、学校法人関係税制の一層の改善を期す、を内容とする「決議(案)」が示され、その内容を採用するとともに、小松私学部長に手交し、今後、平成二十五年(2023)年度私立大学関係府予算と税制改正に係る私立大学側の要望の実現について、関係方面に対して強く求めていくことが確認された。

●「私立大学の明日の発展のために
—監事の役割の再認識—」[平成二十四年度改訂版]

私立連盟監事会議では、平成二十三年三月の「私立大学の明日の発展のために—監事の役割の再認識—」に「教学監査補遺版」を付記し組み入れた「平成二十四年度改訂版」を刊行しました。同改訂版は本連盟ウェブサイトに「会員専用ページ」にて閲覧可能です。

●企画案・ご意見・ご感想の募集

広報・情報部門会議（大学時報）では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見・ご感想を随時募集しております。企画案は、同会議で検討させていただきますので、企画をご提案いただいた際は、過去の企画記事をご参照いただき、執筆者数、記事数、ページ数などの制約をご理解のうえ、お送りください。①募集内容・企画案（テーマと主旨）、②ご意見・ご感想、③書式：自由（A4一枚程度）、④提出先：daigakuho@shindaren.or.jp⑤その他：連絡先（お名前、大学名等）を明記ください。

□どの大学も、障がいのある学生の数が少ない時代には、支援はボランティアに任せておけばいい、みたいな対応になっていたかと思う。しかし、障がいのある学生が多くなるにつれ、組織的な対応が必須となる。特集で取り上げられた大学は先進的な活動を展開しているが、ここに至るまでの道のりは決して平坦ではなかったはずである。今回の特集が、各大学の今後の取り組みの参考となれば幸いである。

ところで、今回の特集においては、「障害」「障がい」「しょうがい」などの表記をあえて統一せず、執筆者の表現を尊重している。このテーマに関して、個人や大学のさまざまな思いが表記の違いに表れていると考えるからである。

これから取り組みを始める大学は、対応策を検討する第一歩として、まずは学内で表記の統一について議論を深めてみてはいいかであろうか。

（広報・情報部門会議（大学時報）委員・上智大学学術情報局長 大日方 聖信）
□学生が主役の学園祭で、学生が

「自主的に」受験生に向けて大学をPRする事例が増えているという。

大学受験が買い手市場に傾いている昨今、大学はあれやこれやと情報発信に努めるが、大学に都合の良い目線に偏つてしまふことは否めない。その点、学園祭は大学の非日常ながら、受験生にとっては学生のありのままの姿に気軽に接し、日常を垣間見ることができる貴重な情報源になりうるという点は一理ある。大学が見せたい姿と受験生が心ひかれるポイントが必ずしも合致していないことを再確認させられた。その乖離の橋渡しをできるのが双方の立場を知る学生ということなのだろう。

大学がオフィシャルに発信する情報と学生が語る大学生活の実際とを受験生がうまく融合して大学を複眼的にとらえ、入学後のミスマッチがない幸せな巡りあわせにつながることを期待したい。（広報・情報部門会議（大学時報）委員・同志社大学企画部広報室広報課 辻中 香名子）

□平成二十五年を迎えた。巳年の蛇は脱皮をすることから「再生」や「脱却」の象徴とも言われている。政府は「教育再生実行会議」を設置し、大学教育の改革も含め日本の教育再生のあり方についての検討をスター

お知らせ

本誌「大学時報」は、平成二十四年度から日本私立大学連盟のウェブサイトに本文を閲覧できるようにしました。詳細は、<http://www.shindaren.or.jp/activities/daigakujiun>をご覧ください。

トさせた。

大学に関する社会的関心が強まっている昨今。個々の大学が自らの存在意義を社会に発信し、理解と共感を得ることのできる「魅力」ある私立大学を目指して」今後も輝き続けるための方策を柱に、座談会を開催した。学長や理事長など大学トップのお立場から、決意を新たに大学の発展について語っていただいた。

インタビューは、年男でもある(株)ナビタイムジャパン代表取締役社長大西啓介氏に、ゲストとしてご登場いただいた。巳年生まれの特徴は探究心と情熱とも言われるとおり、一つの研究テーマを追究され、ビジネスとして成功されたご経験から、大学での学びや出会いが、自らの人生を豊かにすることを教えてくれた。（日本私立大学連盟事務局 秋濱 里佳）

（大学名A B C順）
は同一学校法人

[illegible]

大學時報

平成25年1月20日発行

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-2-25

電話 03-3262-3603 FAX 03-3262-3604

<http://www.shidairen.or.jp>

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

佐藤	賢治	(中大大学業務支援室係長)
大友	香名子	(同志社大学企画部広報室広報課)
小方	聖信	(上智大学学術情報局長)
小野	康平	(関西大学広報室広報部長)
小赤木	聖雄	(関西学院大学補佐・経済学部教授)
森高	完弘	(慶應義塾大学法学部教授)
大村	健太郎	(日本大学芸術学部教授)
大月	太生	(立教大学学生総合学系厚生課)
田場	陽子	(立命館大学総合企画部広報課長)
秋澤	佳里	(早稲田大学広報室広報課主任)
		(日本私立大学連盟事務局)

